

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 Human Centric Intelligent Society	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
-------------	-------------	--------------------------------------	------------------	-------------------------	--------------------	----------	------

ICTの提供による 温室効果ガス(GHG)排出量の削減	持続可能性に貢献する (サステナビリティ)ソリューションの提供	エネルギー効率に優れた トップレベル製品の開発	製品の資源効率向上	先端グリーンICTの 研究開発	社会との協働/ 良き企業市民としての活動
--------------------------------	------------------------------------	----------------------------	-----------	--------------------	-------------------------

社会との協働／良き企業市民としての活動

富士通グループのアプローチ

グローバルICT企業として、お客様・社会とともに持続可能で豊かな社会の実現を目指す富士通グループでは、NPO/NGO、教育機関、自治体、市民団体など多様な主体による社会課題の解決に向けた活動を、資金、技術(ICT)、人材(専門性)を通じて支援しています。具体的には、自治体が生物多様性地域戦略を策定・実行するための調査や市民啓発への技術支援、NPOの希少種保護、温暖化対策プロジェクトへの資金支援、モニタリングシステムなどの技術支援、国際機関の社会貢献プログラムへ参加する人材支援などが挙げられます。支援対象・内容は、事業拠点、富士通グループ各社が地域のニーズや課題を受けて判断しています。

また、社員一人ひとりが社会・環境課題に対して高い意識を持ち、当事者としてそれらの解決に関わっていくことを奨励し、社員が取り組む社会貢献活動を支援しています。

2014年度の実績サマリー

第7期環境行動計画の目標 (2015年度末まで)	社会との協働 生物多様性などの社会・環境課題の解決に取り組む活動に対し、資金、技術、人材などを支援する。	良き企業市民としての活動 社員が社会とともに取り組む 社会貢献活動 を支援する。
2014年度実績 (主な事例)	【資金】 児童擁護センターへの寄付や赤十字を通じた災害被害支援 【技術】 静脈認証システムの提供 【人材】 職業訓練の実施 など	社員の社会貢献活動時間 14.5万時間

2014年度の実績・成果

社会貢献活動を実施する地域や規模が拡大

2014年度はアジアを中心に海外の販社やサポートセンターにも活動を展開し、地域社会と連携した新たな取り組みが数多く始まりました。また、日本やイギリス、北欧諸国など、従来から社会貢献活動が盛んな地域では、社員やステークホルダーの参加者数や活動回数の拡大を図るとともに、国内で推進する環境出前授業にICTを適用するなど、技術による支援を積極的に行いました。

国内外で14.5万時間の社会貢献活動を実施

EMEIAやアジアでは生物多様性保全や次世代人材育成、アメリカでは地域奉仕など、地域ごとに異なる多様なニーズに対し、資金、技術、人材の提供を通じて支援しました。

また、社員が取り組む社会貢献活動としては、特に海外の実績が約3倍増加。国内外を含めた社会貢献活動時間は14.5万時間となりました。



社会貢献活動事例

- 静脈認証システムを幼稚園に寄贈:
江蘇富士通通信技術有限公司(中国)
会社の創設20周年を記念し、PalmPass™幼稚園管理システムを寄贈。幼稚園の安心・安全な環境づくりに貢献。(写真上2点)
- 800名の生徒に職業訓練授業を実施:
Fujitsu UK & Ireland(英国)
社員7名がBishop Vaughan schoolに通う生徒にプレゼンテーションスキルやライティングなど多様な職業訓練を実施。
- 児童擁護センターへクリスマスギフトをプレゼント:
Fujitsu Network Communications(米国)
テキサス州にある児童擁護センターに、社員780名以上から集めた約2,500ドルの現金と、おもちゃ7箱分をプレゼント。(写真左下)
- 3か年の緑地保全活動を開始:Fujitsu Systems Business(タイ)
タイ王室林野局と3か年の緑地保全活動の協定を締結し、サムットプラカーン県バンクラチャオの公園で400本の苗木を植樹。(写真右下)
- 養蜂箱の設置による生物多様性保全への貢献:
Fujitsu Technology Solutions EE(ベルギー／ルクセンブルク)
専門機関と連携し、8,000ユーロを投入して富士通の建物の屋上に養蜂箱を設置。

2015年度の目標・計画

社員が取り組む活動時間の拡大とICT活用の推進

2014年度に新たに実施した活動を継続するとともに、国内外において、社員が取り組む活動の機会を提供し、活動時間を拡大していく予定です。

また、センシングやモニタリング、データ分析など、当社の技術を社会貢献活動のフィールドで活かすことで、各地域の課題解決により一層貢献できる活動に転換することを目指し、ICTの活用を推進していきます。

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 Human Centric Intelligent Society	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
ICTの提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減	持続可能性に貢献する(サステナビリティ)ソリューションの提供	エネルギー効率に優れたトップレベル製品の開発	製品の資源効率向上	先端グリーンICTの研究開発	社会との協働／ 良き企業市民としての活動		

社会との協働／良き企業市民としての活動

2014年度の主な活動報告

ボルネオ島の豊かな森を取り戻すために熱帯雨林再生活動を実施(マレーシア)

富士通グループでは、2002年からマレーシア・サバ州にある「富士通グループ・マレーシア・エコ・フォレストパーク」で、サバ州森林開発公社の支援を受けながら、熱帯雨林再生プロジェクトに取り組んでいます。木材用の外来種が生えている150haの土地に、在来種であるフタバガキ種37,500本を植林。現在は主に、苗木を育てるためのメンテナンス活動を実施しています。

また毎年、世界中の富士通グループ社員が現地集って、熱帯雨林の現状視察と森林保全作業を体験するエコツアーを開催。2014年は、世界8か国66名の社員とその家族が参加し、地元の大学生や日本人学校生徒などの現地ステークホルダーを合わせ、総勢100名以上が約1,400本の苗木の補植などの保全活動を行いました。このような活動の継続により、約10mの高さに成長した木もあり、豊かな生態系の熱帯雨林へと着実に再生されつつあります。



社員による熱帯雨林再生活動の様子

環境出前授業を7,300名に実施し、環境について考えるきっかけを提供(日本)

富士通グループは、未来を担う子どもたちに環境の大切さを知ってもらうため、社員講師による環境出前授業を実施しています。2014年度は、144か所の小・中学校などで、延べ7,300名を対象に実施しました。

現在、学校現場ではICTの導入が進んでおり、今後は生徒一人ひとりがタブレットPCを使う授業が実施されていきます。そこで2014年度の環境出前授業は、この新しい授業をいち早く体験できる2つのプログラム「地球1個分で暮らすために」、「将来のシゴトとエコ」をNP0と連携して開発、展開しました。生徒たちが互いの意見を共有したり、全生徒の回答状況を見ながら授業を進めることができるなど、ICTならではのインタラクティブな授業を実施しています。また、「将来のシゴトとエコ」には、キャリア教育の要素も取り入れています。



1人が1台のタブレットPCを使う授業を体験

社員114名が自転車レースに参加(フィンランド)

富士通フィンランドでは、2009年から毎年、自転車の総走行距離をチーム対抗で競う「キロメートルレース」に参加しています。このレースは、通勤やプライベートの移動手段を自動車から自転車に切り替え、日々の移動による環境負荷の低減を図るものです。

2014年は5～9月にかけて開催され、従業員114名が参加。総走行距離は134,819キロメートル、約23.6トンのCO₂排出量削減に貢献しました。レース全体では、走行距離2,700万キロメートル超、CO₂排出量削減は4,765トンでした。

また今回は、本レースに合わせてフィンランドの赤十字が主催するチャリティイベントにも参加。富士通フィンランドは総額1万ユーロを災害支援へ寄付し、2,400以上の参加チーム中で最大の寄贈者となりました。



家族と一緒にレースに挑んだマッティ・コスキミース(左)、富士通チームキャプテンのキモ・バイッコラ(右)